



おすもうさんは、どうしてはだかなの

はだかのほうが、けがしたりしないから

おすもうさんを見ていると、こしのまわりに「まわし」というものを巻きつけている以外、
なにも身につけていませんね。ほとんど、はだかに近い姿で、すもうをとります。

昔、殿様の前で、若い武士が力じまんの形ですもうをとりました。そのときは、こし
から下には、「はかま」という、はばの広い、ズボンのようなものをはいていました。上半身
は、はだかでした。

今のような土俵ができたのは、江戸時代で、このころには、現在と同じスタイルになって
いました。

服を着たまますもうをとると、ひもが引っかかったりしてけがをしやすくなりますし、服
も破けてしまいます。それで、はだかで、すもうをとるようになったのです。

おすもうさんが、土俵に塩をまくわけ

おすもうさんは、すもうをとる前に、水おけの水で口を清めます。そのあと、体や顔を
ふく力紙を使います。そして、土俵に塩をまきます。

おすもうさんは、このように塩と紙と水を使って、神道のけがれを取り除き清める儀式に
ならった行動をとります。土俵は、おすもうさんにとって、戦いの場であり、「わたしは死力
をつくして戦います」、というちかいをしているのです。つまり、力水も、力紙も、塩も、
土俵を清め、自分の心と体を清めるといふ、神さまへの儀式のようなものなのです。（監
修・青木 国夫）

